Ⅵ　生活場面「人間（ひと）としての尊厳を持って生きる」

【1】第 4 次大阪府障がい者計画（後期計画）における整理

＜めざすべき姿＞
社会のだれもが障がい者への合理的配慮を実践し、
障がい者が社会の構成員として尊厳を持って生きていることを実感している

【今後の主な課題】

○合理的配慮の実践までを見据えた障がい者及び障がい理解についての広報・啓発
○障がい者差別の禁止に向けた取組みのより一層の強化
○実効性のある防災の推進
○十分な情報・コミュニケーションの確保

【個別分野ごとの施策の方向性】

（1）障がい者や障がいへの正しい理解を深める
　①障がい者や障がいについての広報・啓発
　②障がい者理解を深める教育の推進
（2）障がい者の尊厳を保持する
　①障がい者差別の禁止
　②障がい者虐待等の防止
　③権利擁護の充実
（3）安全・安心を確保する
　①防災の推進
　②防犯の推進
（4）十分な情報・コミュニケーションを確保する

【2】平成 28 年度障がい者の生活ニーズ実態調査の分析

表 1　「いやな経験の内容」×「場所」

	学校	職場・仕事	病院・福祉施設	お店	電車・バス	住居・住まい	近所づきあい	役所	総計
無視される、仲間外れにされる	346	99	16	15	8	23	66	8	581
じろじろ見られたり指をさされる	**142**	**39**	**182**	**369**	**397**	**73**	**206**	**68**	**1,476**
子ども扱いされる	41	22	27	17	5	38	16	16	182
助けてほしい時に助けてもらえない	112	145	101	66	116	51	45	105	741
入居・入店・乗車などを拒否される	0	5	16	35	19	15	2	3	95
総計	*641*	310	342	*502*	*545*	200	335	200	3,075

＜分析結果＞　※全て表 1

・場所に限らず、差別や嫌な思いの内容として「じろじろ見られたり指をさされる」が突出して多く、次いで「助けて欲しい時に助けてもらえない」、「無視される、仲間はずれにされる」となっている。
・場所別では「学校」で嫌な思いをしたと答えた人が最も多く、次いで「電車・バス」、「お店」となっている。また、「職場・仕事」や「役所」よりも、「病院・施設」の方が上回る結果となった。
・場所別の特徴としては、「学校」では「無視される、仲間はずれにされる」が最も多く、「職場・仕事」及び「役所」では「助けて欲しい時に助けてもらえない」が最も多い回答となっている。
・また、少数ではあるが「学校」以外の全ての場所において「入居・入店・乗車などを拒否される」との回答をした人が居る（95/3,075:約 3%）。

資料 2-2

表 2　今の暮らし×災害時に困ること

		災害時に困ること							
		災害情報の取得	安全な場所に一人で移動できない	避難所での生活（ハード面）	避難所での生活（ソフト面）	福祉避難所が少ない・情報がない	医療的なケアや医薬品の提供	その他	計
今の暮らし	一人	72	134	57	59	92	75	49	538
	親等	151	622	196	396	426	210	83	2,084
	配偶者等	95	386	174	106	230	206	72	1,269
	友達等	4	36	6	15	24	7	9	101
	施設	11	88	19	38	34	10	8	208
	病院	1	16	2	6	2	6	2	35
	計	334	1,282	454	620	808	514	223	4,235

表 3　今使っている支援×今後使いたい支援

		今後使いたい支援					
		手話通訳	盲ろう者通訳	筆談・要約筆記	文字盤・絵カード	IT	計
今使っている支援	手話通訳	18	1	6	3	6	34
	盲ろう者通訳	0	3	1	0	3	7
	筆談・要約筆記	5	0	36	3	21	65
	文字盤・絵カード	1	1	5	49	52	108
	IT	0	1	2	1	32	36
	計	24	6	50	56	114	250

表 4　今使っている支援×支援が違う理由

		今使っている支援と今後使いたい支援が違う理由					
		手続が面倒	必要時に使えない	身近な人が支援してくれる	使っても伝わらない	便利	計
今使っている支援	手話通訳	1	1	3	4	8	17
	盲ろう者通訳	2	2	1	0	0	5
	筆談・要約筆記	3	2	11	4	19	39
	文字盤・絵カード	0	5	10	10	32	57
	IT	2	1	1	2	6	12
	計	8	11	26	20	65	130

表 5　今後使いたい支援×支援が違う理由

		今後使いたい支援と今使っている支援が違う理由					
		手続が面倒	必要時に使えない	身近な人が支援してくれる	使っても伝わらない	便利	計
今後使いたい支援	手話通訳	3	1	1	1	6	12
	盲ろう者通訳	1	2	1	1	0	5
	筆談・要約筆記	1	1	9	6	6	23
	文字盤・絵カード	1	0	9	14	4	28
	IT	5	10	12	13	62	102
	計	11	14	32	35	78	170

＜分析結果＞

・暮らしの形態に関わらず、災害時に困ることで最も多かったのは「安全な場所に一人で移動できない（単独避難）」であり、次いで「障がいのある人を対象とした福祉避難所が少ない、情報がない（福祉避難所・情報）」であった（表 2）。

・人と話をする時に支援を必要としている人が、今後使いたい支援として最も多く選んだのは「IT を活用したソフトやアプリ」であった。一方で、手話通訳や筆談・要約筆記を使っている人の半数以上は、今後も同じ支援を必要としている（表 3）。

・今使っている支援と今後使いたい支援とが違う人の理由は「今後使いたい支援の方が便利」が半数以上で最多であった。その他「身近な人が支援してくれる」、「使ってもちゃんと言いたいことが伝わらない」が主な理由となっている（表 4、表 5）。